

住民説明会の開催結果

平成 28 年 12 月に斜里町と羅臼町、標津町で各 1 回、計 3 回の住民説明会を実施した。

実施日時：

平成 28 年 12 月 4 日（日） 14:00～16:00 標津町生涯学習センターあすばる
12 月 5 日（月） 18:00～19:30 羅臼町公民館
12 月 6 日（火） 18:30～20:00 知床世界遺産センター（斜里町ウトロ）

* 標津町の住民説明会は、標津町アニマル・プロジェクト講演会と同時開催した。

参加者数：計 74 名（斜里町 29 名、羅臼町 9 名、標津町 36 名）

参加者から出た意見・質問等：

- ✓ 管理計画の内容を周知するにあたり新しい方策はあるか。今春、山菜取りに行った際にシカの頭が投棄されていたことがあった。おそらくハンターが投棄したものだと思う。誘引物を投棄する人に対して、どのように対応してやめてもらうことを考えているか。
- ✓ 地域住民には魚を干したいという要望がある。クマの手が届かない場所にどのように魚を干したらよいか。
- ✓ 変更ポイントで、行動段階 1+ を作ったのは重要なポイントと思うが、行動段階 1 と 1+ とで対応が変わるゾーン 4 は羅臼町にはほとんどない。市街地への出没を半減させるという目標を達成するのはかなり無理があると思うが、よい方策はあるか。今年、小学校周辺でヒグマの出没が相次ぎ、父兄のあいだでいつ捕獲になるのかという話が頻繁に話題になった。管理計画に捕獲と書いてあるものの、いつ捕獲になるのかもわからない現在のような状況では、住民の理解を得るのは困難と思う。住民の理解を得ることも重要なのではないか。
- ✓ 同一個体に何度も追い払い対応を行うケースがあると思うが、ヒグマの性質が一変するようなケースもあるので十分に注意してほしい。追い払ったら逃げていた昨日のクマも、今日は変わっている可能性がある。
- ✓ 登山道でヒグマに進路を塞がれて、多くの登山者が滞留している状況に出会っている。羅臼岳からの下山中にヒグマに進路を塞がれば迂回路はない。ヒグマとニアミスを起こすこともあるだろうし、下山できないことで遭難に繋がるケースもあり心配している。クマ撃退スプレーを持っていても、登山道上にクマがいると下山できない状況になる。
- ✓ 「行動段階 1+」を新たに設定しているが、行動段階 2 の定義を拡大すればよいのでは。またゾーン 3 が無くなり「特定管理地」になったが、ゾーン 3 が抜けているのはわかりにくい。「ゾーン 3（特定管理地）」にしたほうが分かり易くなる。
- ✓ メスヒグマの捕獲を 75 頭以下にすると目標に書いてあるが、オスは上限を設けない、つまり捕獲が必要と判断したら捕獲するということか。
- ✓ ゾーン 4 のウトロ東に私の働いている漁場の作業場がある。今春はそこでヒグマの出没が相次いだ。周辺にはアパートやホテルがあり、小さな子供も暮らしている。我々がヒグマを発見したら通報しているが、住民はほぼ毎朝のようにヒグマを見ており、頻度が高くて知床財団や役

場に通報していない状況である。あの地域に出現するヒグマは、斜面を登り、国設野営場の方向に移動していくパターンが多い。そうした場所をゾーン4とするのはいかなものか。もうすこしゾーン5を延長してもらえないか。新しい管理計画では、ゾーン4でも行動段階1+に対して捕獲という対応が加えられているが、今年の状況では、斜面の下に設置されている落石柵を越えてヒグマが建物や道路側に入ってくる気配もあった。番屋の周囲に電気柵を張ってもあまり意味がない。ゾーンの変更を検討してもらいたい。

- ✓ 5年間の目標に関連して新しい方策が出されている。大量出沒は餌不足によるとされており、出沒時の対応は管理計画に書いてあるが、餌不足になっている、または餌不足が予想されるときに管理側が取れる方策は具体的に何かないか。ツキノワグマの大量出沒の際、ドングリを集めたような場所もある。知床の場合、自然の動きに手を加えていいのかといった議論もあると思うが、大量出沒が検知された際に取り得るような対策はあるのか。
- ✓ 餌不足による大量出沒、大量捕獲が続いたが、それが自然なことなのか、何らかの変化があってそうした状況になっているのか、科学委員会など知床世界遺産の管理では、そのような原因を究明することも目指しているのか。



写真. 住民説明会の様子

(左上：標津町、右上：羅臼町、左下：斜里町)